

[経営管理研究室]省力林業における育林労作の合理化に関する研究(No.1) : 除草剤散布工程の基礎的実験の方法と結果

中島, 能道
九州大学農学部附属演習林 : 助手

宮崎, 安貞
九州大学農学部附属演習林 : 助手

竹原, 幸治
九州大学農学部附属演習林 : 事務員

<https://doi.org/10.15017/1456103>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和37年度, pp.14-15, 1963. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



有意差が認められた。

(注) (1) 中島能道, 吉良今朝芳 : 伐木造材作業のクレアチニン定量法による労働科学的考察, 日本林学会大会キョク2回講演集 昭37. 4月

(2), (3) 中島能道, 吉良今朝芳, 竹原幸治 : 下刈機の振動と尿中クレアチニン量, ドナジオ反応値との関係について, 日本林学会九州支部大会 キノ8回講演集 昭37. 10月

省力林業における育林労作の合理化に関する研究 No.1

— 除草制撒布工程の基礎的実験の方法と結果 —

中島能道, 宮崎安貞, 竹原幸治

1. 研究目的

林業経営について, (i) 自然条件の最適な有効利用の領域を見究め, (ii) 森林の有機的・動態的機能も合理的に規制することにより林力を増強させ, (iii) 林業機械の導入と適正な労働力の投下あるいは調産をはかること, によって省力林業の技術的体系をととのえることは, 現下の諸般の事情にかんがみ, 当然考慮されなければならない課題である。このような当面の課題に対する研究の一環として, ここでは育林労作のうち, とくに経費的に大きな比重を占める下刈作業を, 化学的に処理することにより節減されるであろう労働力を, 工程研究を通じて推定しようとした。

2. 方法⁽¹⁾と結果⁽²⁾

最初の段階として, 工程を左右すると思われる因子を抽出する

(14)

ため、(i) 作業方式(機械撒布と手撒き) (ii) 地形条件(平地地: $0^{\circ} \sim 5^{\circ}$ と傾斜地: $20^{\circ} \sim 30^{\circ}$) (iii) 地被植生(草類: 長さ $0.5m \sim 1.0m$ と笹類: 長さ $0.3m \sim 0.5m$) (iv) 撒布の形状(ベルト状とスポット状) (v) 作業能力の個人差(被検者Aと被検者B)とを検定すべき因子として、 2^n 型多元配置法を適用した。

その結果 (a) 機械撒布は手撒布よりも...、(b) 笹類に撒布する場合は草類のそれよりも...、(c) スポット状はベルト状よりも...、それぞれ工期は上昇する。しかし、(d) 傾斜角度は工期にほとんど影響がない、ということが判明した。

(註) (1)(2) 宮島寛、中島能道、宮崎実貞、須崎民雄、竹原幸治: 山地の草・笹類成長抑制剤撒布作業の工期に関する基礎的研究 日本林学会九州支部大会 オノ8回講演集
昭37年10月

林業における取場小集団の生産行動に関する研究 No.1

塩谷 勉、中島能道、

1. 研究目的

労務管理が「企業がその目的達成の手段として、全体としての経営労働者のあり方を、長期の総合的労働能率維持増進に最も適合した状態のものたらしめようとする、一連の計画的組織的総合措置⁽¹⁾」であるとするならば、その具体的な施策は、経営労働者の生産行動の適正化と、これを規制する諸条件の整備である。従来は、これらの施策の資料はテーラー・ギルスレス方式を中心とする、いわゆる科学的管理法と、一部労働科学的な研究方法によって得たものであった。しかしこれらのものは、いずれも労働能率